

宮古商が男女優勝 FJ級 420級

セーリング

【男子】

▽FJ級ソロ ①宮古商A(村上凌哉、佐々木彩人) 6点②宮古商B(前川翔太、長屋敷航也) 16点③宮古A(佐香将太、佐々木啓) 18点

▽420級 ①宮古商B(加藤卓、向口瑠袈) 9点②宮古商A(高橋祐哉、石崎泰成) 12点③宮古A(中嶋俊、小笠原魁) 15点

【女子】

▽FJ級ソロ ①宮古商B(小成海舞、鈴木風香) 11点②宮古商A(平山史乃、佐々木美海) 11点③宮古A(小名歩美、小笠原彩乃、加藤美久、田中真琴) 16点

木あすき、佐々木歩美、7点の宮古商B、佐々木香波、木村若菜、前川優香) 11点(出場2チーム)

初国体会場 生きた経験

FJ級 男子 宮古商村上、佐々木 男子 FJ級は宮古商Aの村上凌哉、佐々木彩人(ともに3年)が全レース1位の圧倒的な強さで優勝した。

2016年のいわて国体の競技場を利用した初めてのレース。風や波のうねりが生じやすいコンディションだったが、豊富な経験が生きた。



男子FJ級を制した宮古商Aの(左から)村上凌哉、佐々木彩人



男子420級を制した宮古商Bの(左から)加藤卓、向口瑠袈



女子FJ級で優勝した宮古商Bの(左から)小成海舞、鈴木風香



女子420級で優勝した(左から)宮古商Aの佐々木あすき、佐々木歩美

「楽しんでいこうと声を掛け合った」(佐々木)と優勝のうれしさをにじませながらも、「スタートがトップスピードで出

られなかったり、レースを通じて新しい課題がいろいろ出てきた」(村上)と厳しい反省も忘れなかった。

約2週間後にはインターハイ出場を懸けた東北大会が迫る。佐々木は基本に返って一つ一つの動

作を正確に行いたい」と語り、2人で「東北大会でもオールトップで優勝を目指す」と完全制覇に向け意気込んだ。

(石田)

▼トップ死守も課題実感 女子FJ級は宮古商Bの小成海舞、鈴木風香

(ともに3年)が初日から順位を守りきり優勝を果たした。しかし「勝ったのはうれしいが、レースではスタートなど基礎的な部分でミスが多かった」と、2人とも順位よりもレース内容に悔しさをにじませた。

スピードを意識した練習を重ねて挑んだ大会。不慣れた海域に加え、初日に比べて最終日は風が弱まるなど不安定なコンディションに鈴木は「うまく乗り切れなかった」と振り返る。

「どんな風域でも安定

して船を走らせられるように調整したい」と課題の改善に向けて前向き、「東北大会での優勝、インターハイを目指して頑張る」と2人声をそろえて気持ちを切り替えた。